

令和 6 年度名取市長期総合計画・地方創生総合戦略推進委員会 議事録

1 日 時 令和 6 年 7 月 31 日（水）15：00～17：00

2 場 所 名取市役所議会棟 3 階 第 1・2 委員会室

3 出席者（委 員）◎水田委員長、○本郷副委員長、徳竹委員、富澤委員、林委員、
加茂委員、相澤委員、二階堂委員、吾妻委員、齋藤委員、
洞口（の）委員、佐藤委員
（欠席者：洞口（祐）委員、板橋委員）
◎：委員長 ○：副委員長

（事務局）小平企画部長

政策企画課：針生課長、佐藤課長補佐、佐藤係長、森主事

菊地主事、渥美主事

なとりの魅力創生課：佐藤係長

DX 推進室：新開補佐

4 傍聴者 0 名

5 内 容

○開会に先立ち、事務局より新規就任委員の紹介を行った。委嘱状は机上交付とした。

①開 会（司会 佐藤課長補佐）

②あいさつ（水田委員長）

本日は、お忙しい中、昨年度に引き続き、名取市長期総合計画・地方創生総合戦略推進委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、本委員会は、名取市で策定した令和 2 年度を計画の初年度とする「名取市第六次長期総合計画」及び「名取市第六次長期総合計画地方創生総合戦略版」に定めている各施策の進捗状況を検証し、両計画の着実な推進を図ることが目的となっております。

本日は、次第にもありますとおり、令和 5 年度末時点における各施策の進捗状況に加え、本年度に計画の折り返し地点を迎える長期総合計画の中間見直しに伴い、策定が進められている後期基本計画の案について、委員の皆様にご意見を伺う第 1 回目の会議となります。また、昨年度から実施されている地方創生の取組についても効果検証を行うことにしております。

つきましては、限られた時間の中ではございますが、委員の皆さまそれぞれのお立場

から、ご意見やご提案などを出していただきますようお願い申し上げ、簡単ではありますが挨拶とさせていただきます。

○会議の公開および会議録について委員名記載の要点筆記とする旨承認された。

③報 告（進行：議長 水田委員長）

※ 以下、水田委員長を議長として進行。

（１）名取市第六次長期総合計画の進捗状況について

資料：名取市第六次長期総合計画の進捗状況報告について
名取市第六次長期総合計画の進捗状況について

資料 1

資料 2

《事務局より説明》

【質疑応答等】

（本郷委員）

資料 1 P.13・NO74「空き家の利活用（戸）【累計】」について、田舎の地域は、ひとり暮らしなど空き家予備軍が世帯として多い。

空き家の利活用とはどのようなものか。

（事務局）

個人の空き家をリノベーションし、事業活動を展開される方に対して市が補助を実施している。現状、年間 1 件ないし 2 件となかなか取組が広く展開されていないという実情である。名取市はまだ空き家が少ない方であると分析しているが、今後空き家は増えていくだろう。行政としてできることをしていきたいが、抜本的な解決は難しいだろうと捉えている。

また、市内の不動産業者の協力をいただいている「空き家バンク」というものがある。空き家を登録して、利用される方とつなぐ取組であり、人口が減っている地域については、その地域の住宅を取得する方に補助金を交付することで、市内での転居を含め空き家になりがちな地域について、空き家になる前の対策を進めているところがある。

（本郷委員）

小さな集落では、昔ながらの広い屋敷にひとりで生活している人もいる。その方はこういう家はひとりでは管理できないからいらないと言っており、空き家予備軍になっている家が何件かある。

利活用の件数を現状 2 件、これから 5 件 11 件と見込んでいるようだが、田舎のほうだと利活用は難しい。このことについて市としての働きかけなどどのように考えているか。

(事務局)

過去にもセリ農家へ就農したいという方が、空き家を利用するという事で、つないだという実績がある。

農家住宅だとなかなか市場に乗ってこないという事はあるが、農家住宅を使う場合の耕作面積の下限值というものも緩和されている。農業を経営していただく必要はあるが、農家住宅等に入っていく方の誘導というのもこれから進めていきたいと考えている。

(齋藤委員)

資料 1 P.7 (3-3)「市民意識調査の結果概要 (項目抜粋)」についても興味深く拝見した。「これからも名取市に住み続けたいと思いますか。」という問いに対して、「どちらかといえば住みたくない」などと答えた方のなかに、「地域の行事や近所づきあいが面倒だから」と答えた方が現状 14.1%、コロナ過前では 22.5%と数値が減ったという話があった。しかし、地域の次世代とのつながりが課題となっている中で、行事などが面倒だから、行事が減ったから数値が減ったというのは、逆に問題意識も高まっているのではないかと感じている。データを数字化したものをさらに紐解いて、各施策に反映していただければと感じた。

資料 1 P.10・NO26「中高生が保育所などにおいて、子どもとふれあう機会 (人)」について、「職業体験等」をカウントしていただいたが、中学校で特定の学年は保育体験をするなどの取組みがあった。以前だとみどり台中学校で取組んでいたと思う。これが市内全域の学校となると 150 人以上の数字になると感じている。

人数の根拠に保育体験が入っていたのか。今後児童館の人数をカウントしていくという話もあるが、「子ども」の対象が乳幼児なのか小学生も入ってくるのか、それによつては 150 人というのは、1 か月で超えてしまう目標値ではないか。

中高生はよく児童館に遊びに来ていて、日常的に小学生と遊んでくれている様子も見られている。延べ人数的でいうと目標値が低い数字になってくると思うので、今後児童館とか範囲を広げていくのであれば、目標値等も大幅に変えていく必要があるのかなと感じている。

今のところどのように検討していたのかご説明いただければと思う。

(事務局)

前期の計画の中では、職業体験として保育所に来ていた人数を捉えていた。0～5 歳を

対象として捉えた 0 名としてご報告している。

委員からご指摘いただいたとおり、こども支援課と相談するなかで、この指標は乳幼児に限るものではないのではないかと相談をしている。小学生なども含め、多世代が触れ合う機会を拡充することが大事なのではないかと、改めて指標をどのようにするか調整している。今の案では、3,000 人ぐらいという見込みもあり、引き続き検討していく。

(相澤委員)

資料 1 P.10・NO31, 33 「国民健康保険税の現年度収納率 (%)」、「介護保険料収納率 (%)」について、ほかの項目だと概が市民の生活向上あるいは市民に対するサービスの向上、行政施策の有効性という部分から目標を達成しているか見ている。しかし、この 2 つの項目だけ行政側の見方というか、立ち位置が違うような気がする。この項目が目標値を達成したという部分にカウントされることについて違和感がある。

今後の取扱いについて検討したほうがいいのではないかな。

(事務局)

後段皆様にご意見いただく、後期計画見直しにかかってくることであると思う。皆様にお配りしている当初計画の P78 にかかってくる部分であり、その中の成果指標（インディケーター）を抜き出して担当が説明したところである。

たしかに国民健康保険、介護保険それぞれ収納率を上げることが目的ではなく、医療、介護の施策としての市民向けの目標があるはず。後期計画策定にあたって、どういった指標が設定できるのか探っていきたい。

(本郷委員)

資料 1 P.12・NO58 「文化協会加入団体数（団体）【累計】」について、加入団体数が減ってきているため、宮城県の芸術協会の絵画部門の人に勧誘の通知を出したが、誰も入っていただけない。県協会に入っているようなレベルの高い人は、名取ではなく中心の仙台を見ている。県協会に入っているから名取には協力できないと言われる。

昨年、文化協会と市民の方々と市民文化祭を 2 日かけて行った。参加者は 500 人を超え、その半分は市民の参加であった。しかしその市民も協会に入っていない。

今年県民文化祭を名取市で開催する。宮城県の中の 59 の文化協会が名取市に集まって発表しあう。文化協会にとって大きなイベントになる。そこに向けて作業しているが、行政はタッチすることなくチェックするだけ。4 月から 1 人で事務をやってきた。

文化協会も高齢化してきており、実務をやってくれる人がいない。名取市の文化芸術を高めていかななくてはならないと思うが、現状としては入ってくれる人がいない状況である。

(2) 名取市第六次長期総合計画地方創生総合戦略版の進捗状況について

資料：名取市第六次長期総合計画～地方創生総合戦略版～の

進捗状況報告について

資料 3

名取市第六次長期総合計画地方創生総合戦略版の進捗状況について

資料 4

《事務局より説明》

【質疑応答等】

(本郷委員)

資料 3 P.8・NO51 「市道改良率 (%)」について、本日の資料によれば、いろいろ整備段階ということで読み取れるわけだが、具体的に申しあげると北目原という地域において、近隣集落との連絡道路が市道ではなく農道となっており、市民バスもそこを通っている。市としては、約 15 年前に 1 億円ほどかけて市道用地を取得したにも関わらず、いまだに着手する様子がなく現在は資材置き場になっている。このことについて、どのように捉えているのかお伺いしたい。

(事務局)

現場について詳細に把握できておらず大変恐縮である。いわゆる狭隘道路を含めた市道の改良については、その舗装や拡幅の要望が市内全地区より数多く寄せられている。ここ数年、特に震災以降は、改良のペースをかなり上げて取り組んでいる事実はあるが、地域の皆さんのリクエストに対して全て応えることは難しいというのが現実であり、ご理解いただきたい部分である。

一方で、地域の生活道路として立ち行かないということであれば、既に伝えてはいると思うがその旨担当課にお話を頂き、その上で、市として優先順位をつけながら取り組んで参りたい。

(本郷委員)

今話に出てきた狭隘道路だが、消防車も救急車も霊きゅう車も通行できない道路が何か所がある状況だが、その改良についてはどういう風になっているのか。だいぶ前から言われていると思うが。

(事務局)

救急車等が通行できない狭隘道路はやはり市内に点在している状況であるので、担当

課としてはそういったところを優先的に取り組んでいると承知している。一方で、市内各地区に同様の課題を抱えている道路があることから、担当課でうまく優先順位を付けつつ、かつ地区ごとに偏りが生じないようにバランスを見ながら取り組んでいるということでご理解いただきたい。

(委員)

救急車や霊きゅう車が入らないことについてはだいぶ前から苦情が出ているので、早く対応いただきたいところである。

(徳竹委員)

資料 3 P7、▲がついている平成 29 年度現状値未満の 2 項目について、不妊治療の助成数が 0 件であったのは、保健事業になったために停止したということで、婚活イベントの参加者数の大幅な減少については、対策に書かれているとおり、現在は一時期のブームが去ったためと思われる。

この個別の項目というよりは全体の話として、やはり 10 年というスパンでの長期計画になると、途中で仕組みが変わり不要となる項目や逆に新しい問題により追加検討すべき項目が途中で出てくることがあると思うが、そういった項目の変更や修正はどのように行なうことになるのか。

(事務局)

ひとまずは今回、前期 5 年を終えるということで、この後の後期 6 年に向けて、指標の入れ替えを検討すべく、今年度作業に取り組んでいる状況である。ご質問としては、年度途中においてはどのように対応するかということであると思うが、そういった項目については計画という冊子上、毎年変更ということは少し難しい部分もあるが、一度立てた基本計画に対して、実施計画という形で毎年 3 年計画の見直し（策定）を行っているため、内部的な議論にはなるが、それらを繰り返しながら、適宜対応していく。

(齋藤委員)

資料 3 P8・NO56 「冒険遊び場事業の実施件数（件）」について、単位は件数となっているが、これは常設ではないため、1 会場 1 回行けば 1 件としてカウントしているのか。それとも委託事業としての実施契約数が 2 件ということなのか。もし前者の場合、令和 5 年度は既に 6 か所で 6 回実施しており、かつ NPO での実施もあるため、少なくとも 6 件以上になると思うが、あくまでも委託事業契約をなとりの魅力創生課と結んだのが 2 団体ということで、2 件という形なのか。

(事務局)

市内で民間団体がたくさん遊び場の事業を実施していることは承知しているが、この中で2件と捉えているのは、委員お見込のとおり、なとりの魅力創生課から遊び場をお願いしている団体数ということで2件となっている。

(本郷委員)

水道については、本管から各戸が支線を引いているわけだが、一部地域では、いまだに13mmの水道管を使用しているところがあり、みんなが同じ時間にお湯を使うと使えなくなるため、それぞれがタンクを準備して、そこに水を貯めて使っているという話を聞いた。このことについては、20mmまたは23mmの水道管へ更新すべきだと考えるが、その際の補助等考えられないものなのか。

(事務局)

宅内の水道管ということで理解してお答えする。以前は集落ごとに管理していた水道を、現在は名取市の水道の中に組み込んでいる事例はいくつかあり、それらについてはタイミングを見て新しい管への更新を行っている。一方で、宅内の水道管を更新するにあたり、市として補助金等で応援するという取組は実施していない状況である。

(3) 名取市第六次長期総合計画 後期基本計画（案）について

資料：名取市第六次長期総合計画の中間見直しについて
名取市第六次長期総合計画後期基本計画 2025-2030
後期基本計画（R7-12）における主な修正箇所
（長期総合計画基本計画からの修正事項）

資料 5

資料 5-1

資料 5-2

【質疑応答等】

(本郷委員)

5・6 空港を活かしたまちづくりについては、後期計画でもいろいろ文章では書いてあるが、具体的にどうするのかという中身が読みとれない。騒音問題について、地域として容認して24時間化した中、実際に飛行機が飛んでいるのは10時半までである。空港を生かしたまちづくりというものを長期総合計画の中で具体的に示すことはできないか。

(事務局)

本日お示ししているものはまだまだ素案段階のものであるため、委員の皆さまからのご意見などを踏まえながら、いろいろ盛り込んでいくこと自体は可能だろうと思っている。どういったものを載せていくのかについては、ご意見等いただけましたら、ぜひ参考にさせていただく。

(本郷委員)

宮城県の空港関係は、空港臨空地域課がやっているが、他の県では観光部門が協議会のようなものを作って観光支援（インバウンド等）を実施しているところがある。このようなことから、宮城県や名取市においては、空港はまだ対策段階で、観光というところまでは行っていないと感じる。文章では書いてあるが、具体的にどのようなものなのか見えてこないの、それはいかながなものなのか。

(事務局)

先ほども申しあげたとおり、現状素案といった状況で、これからどんどん内容をバージョンアップさせていきたいと考えているところである。いわゆる仙台空港という建物を活かしたというよりは、仙台空港があることによって考えられるインバウンド・アウトバウンドといったことの取組についてであるが、例えば観光の振興という視点の中で、インバウンド・アウトバウンドを意識した観光の振興であるとか、あるいは地域産業の振興の中で、外国人の受け入れ環境の整備を目指した店舗の改修等が挙げられるため、そういった部分への支援については具体的な取組として盛り込んでいきたいと考えている。

(本郷委員)

文章を見ても、概略としてはわかるが、なかなか想像がつかない。

(事務局)

現在空港関係については、24時間運用ということで、地元のご理解を頂いて進めているところである。また県では、東南アジア地域への輸出拡大や、あるいはインバウンドの受け入れといったことも視野に入れて進めている。今ご指摘いただいた資料5・1の中では、94・95ページが空港を生かしたまちづくりの推進ということで書かれているが、なかなかその具体例が見えないというところだと思う。

例えば、インバウンドについては、60・61ページに観光客の受け入れというようなところもあり、空港を生かして行う施策が点在していて見づらいということもあろうかと思う。それらの施策について、94・95ページに少しまとめて、場合によっては再掲というような形で表現するというようなことも可能と思われるため、そのあたりの計画の書

きぶりなどについては今後検討していきたい。

また、地元から頂いた様々な要望を踏まえ、面的な整備をしようという動きが下増田地区や本郷地区などで見られるため、そういったところについても、空港を生かした市の活性化の事例として結び付けられるよう表記の工夫をしていきたい。

(林委員)

資料 5 P2の3.見直しのポイントについて、3つのポイントが優先順位での記載なのであれば、「2) 市民のニーズの変化を踏まえた見直し」を1番上としたほうが良いのではないかと。また、**資料 5-2**について、追加や削除、表現修正の表記は非常に分かりやすいため、見直しのポイントとの関係性が見えるようになるとなおよい。以上、参考として意見させていただく。

(4) デジタル田園都市国家構想交付金事業（地方創生推進タイプ）の効果検証について

資料：デジタル田園都市国家構想交付金 実施状況及び効果検証
なとりスーパーキッズ育成事業について
名取市地域 DX 推進事業について

資料 6・6-1

資料 7・7-1

《事務局より説明》

【質疑応答等】

(相澤委員)

資料 6「なとりスーパーキッズ育成事業」の件については、今回のオリンピック等でも、スケートボードの注目度が非常に高まっているものだと思う。そのことについて、主にニュースを見ていると、県内の近隣市町村において、スケートボードをメインにした形で、いろいろな施設を作ったり、あるいは育成のためのプログラムを作ったりという動きがずいぶん出てきているようである。

そのように、県内他市町村との競争という部分がある中で、名取市の育成事業の他市町村との比較における立ち位置はどうなっているのか。また、十分に目標が達成できるような特色のある施策になっているのかお聞きしたい。

(事務局)

まず1点目、他自治体との比較および棲み分けだが、相澤委員のおっしゃるとおり、亘理町や東松島市ではスケボーパークを新たに作って、利用者に提供している。ただ、我々としては、スケボーパークの提供のほかに、専属コーチを付けてしっかりとした指

導をしていけるというところがメリットだと考えており、近隣自治体とは連携しながら取組を実施していきたいと考えているため、差別化ではなく、共存という形で何かできないか考えている。

また目標達成については、しっかりと達成できるかというご指摘だと思うが、一緒にやっていく企業と意思疎通を図りながら、名取市のスケボーパーク以外にも遠征をしていろいろなパークを経験したり、大会に参加したりする中で、目標達成に向けて子どもたちを育成できるというところから今回プログラムの導入に至っている。

(相澤委員)

競争の中で埋もれてしまう事のないような施策になって欲しいという意味で質問した。よろしくお願い。

⑥ そ の 他

例年、本会議は年に1回開催し、進捗を報告させていただいているところであるが、今年度は後期基本計画の策定のため、秋口頃にもう一度会議を開催し、御意見を頂戴したいと考えている。また、議員様方の御意見をいただく場を設ける予定であり、その御意見を踏まえた上で開催する。日程については、改めて御連絡する。

⑦ 閉 会

令和 6 年 8 月 7 日

委員長 水田 恵三